

# 地理歴史科（地理B）学習指導案

指導者 松岡 洋介

- 1 履修単位数 2単位
- 2 実施日時 令和3年11月下旬～12月中旬
- 3 学級 2年1・2組 (18名) 文系地理選択者合併クラス  
2年3組 (36名) 理系地理選択者単独クラス  
2年4・5組 (26名) 理系地理選択者合併クラス
- 4 使用教科書 新詳地理B（帝国書院），新詳高等地図（帝国書院）
- 5 単元名 地図や地理情報システム（GIS）から読み取れる世界

## 6 単元設定の理由

### <生徒観>

本学年の地理選択者は全体の約45%を占めている。ややおとなしい生徒が多いものの、教師が授業中に発する問いかけに対して自ら思考し、表現しようと熱心に学習に取り組んでいる。今年の4月に実施したアンケートでは、「地理への関心度が高い」生徒は約89%、「資料やデータの読み取りが好き（得意）」な生徒は約61%と、後者は過去4年間のアンケートと比較しても突出して高い傾向が見られた。総合的な探究の時間やSSHの課題研究等においても、実験・観察・データの分析や作成の経験を積んできたことも助けて、データ分析を得意とする傾向が強い。そうした生徒の特性を踏まえ十分に生かしながら、ICTを活用した作図などを柱とし、地理情報を調べまとめる地理的技能の育成を図っていききたい。

また、アンケート項目の「地理的な視点から現代社会とのつながりを意識しているか」「歴史的な視点で地理を見たり考えたりすることを意識しているか」に対して、肯定的な答えがどちらも約49%にとどまった。こうした現状から、ローカルな視点とグローバルな視点をとともに携えて日本と世界のつながりを考察する学びや、中学校社会科の歴史的分野の学習との関連を図る学びを通して、地理的な技能と見方・考え方を働かせ現代社会の諸課題を考察する力を身に付けさせたい。

### <教材観>

地図や地理情報システムを活用し、地理的な見方・考え方を働かせながら現代社会を考察する本単元において、生徒が関心を持って、それらの有用性を理解し、必要な情報を読み取る技能を身に付けられる教材が求められる。そのため、生徒にとって身近で、日本と世界とのつながりも感じられる題材として、藍産業や地域ブランド等を教材化した。また、歴史的な背景も踏まえながら、自然環境や産業等の地理的環境に着目して、地域社会の形成の要因について考察し、多面的・多角的な思考を促す資料とした。さらに、人口の国際的な移動や交流人口の流れを考察するにあたっては、公民科や総合的な探究の時間など他教科等で活用した資料（RESASやe-Statなど）も有効である。様々な資料が考察の手がかりや仮説の裏付けになることに気付かせることで、生徒の学習意欲を一層向上させ、幅広い視点から思考を組み立てる力を身に付けさせたい。

### <指導観>

本単元の基軸となる問い「地図や地理情報システムを通せば、この世の中はどう見えるだろうか。」に対して、生徒が、地図や地理情報システムを活用し、地理的な見方・考え方を働かせながら、日本と他の国・地域との関係性を追究し、歴史的背景にも着目して考察するように適切に助言する。また、資料を活用する場面では、日常生活に見られる様々な地図や地理情報システムを用いて、位置や分布などの情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を重視して身に付けさせる。さらに、地図や地理情報システムが多様な場面で利用され、持続可能な社会づくりのために重要な役割を果たしていることに気付かせる。

本単元の指導を通して、生徒に、地図や地理情報システムと現代世界に関する問いの答えを導く楽しさや達成感を実感させ、これからの学習で地図や地理情報システムを更に活用し、資料を収集したり、比較・考察したりしていこうとする態度につなげる。

## 7 単元の目標

- ・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。（知識）
- ・地図や地理情報システムが多様な場面で、持続可能な社会づくりのために果たしている役割やその有用性を理解する。（知識）
- ・地図や地理情報システムから、現代世界の課題などにに関する情報を効果的に収集し、読み取り、文章や図・表などにまとめて表現する技能を身に付ける。（技能）
- ・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を基に、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。（思考）
- ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。（思考）
- ・地図や地理情報システムと現代世界について、よりよい社会の実現を視野に、地図やGISの活用方法を主体的に追究しようとする。（態度）

## 8 単元の位置付け

本単元は、新課程「地理総合」A 地図や地理情報システムで捉える現代世界、(1) 地図や地理情報システムと現代世界 に位置付けられる。地図や地理情報システムの学習を通して、役割や目的について理解するとともに、習得した基礎的技能を活用し、地理的な見方・考え方を働かせながら、日本と世界の結び付きについて多面的・多角的に理解し、よりよい社会の実現を視野に課題を追究する単元である。

【単元の基軸となる問い】 地図や地理情報システムを通せば、この世の中はどう見えるだろうか

## 9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解している。</li> <li>・地図や地理情報システムが多様な場面で、持続可能な社会づくりのために果たしている役割やその有用性を理解している。</li> <li>・地図や地理情報システムから様々な情報を効果的に収集し、読み取り、文章や図・表などにまとめて表現する技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を基に、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した地図や地理情報システムの技能をさらに活用し、よりよい社会の実現を視野に、日本と世界のつながりにみられる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

## 10 指導計画 単元名 地図や地理情報システム(GIS)から読み取れる世界 全8時間 ※新課程による評価規準

第1時 歴史の一場面に登場する場所は、地図やGISを通せばどう見えるだろうか【●技、●態】

第2時 地理院地図や今昔マップから身近な地域のどのような特徴が読み取れるだろうか【○技、●思】

第3時 現代世界はどのように表現されているのだろうか【○技、●思】

第4時 日本の領土・国境はどのようになっているのだろうか【●○知】

第5時 食を通じた日本と世界はどのような結び付きがあるのだろうか【●知、○思】

第6時 グローカルって何だろう①(新型コロナウイルス感染拡大を考える)【●知、●技、●思】

第7時 グローカルって何だろう②(人・もの・サービスの流れを考える)【●技、●知、○思】

第8時 地図や地理情報システムを通せば、この世の中はどう見えるだろうか【○思、○知、○態】

11 単元の指導計画 (●…「学習改善につなげる評価」, ○…「評定に用いる評価」)

【単元の基軸となる問い】 地図や地理情報システムを通せば、この世の中はどう見えるだろうか

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一時	<p>【本時の問い】 歴史の一場面に登場する場所は、地図や地理情報システムを通せばどう見えるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌川広重の「東海道五十三次 日本橋」から、読み取ったことをワークシートまとめる。</li> <li>今昔マップやGoogleMapで調べることができる、「日本橋周辺」の変容を予想して、ワークシートにまとめる。</li> <li>交通マップを用い、日本橋を起点とした交通網の変遷を見る。</li> <li>ウェブGISを使って、他にどのようなことが調べられるかについて考えたことをワークシートにまとめる。</li> </ul>	●			<p>(評価資料)：ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史資料（絵画）から地理に関する情報を適切に読み取っている。（技能）</li> <li>●ウェブGISを使ってどのようなことが調べられるか予想している。（態度）</li> </ul>
第二時	<p>【本時の問い】 地理院地図や今昔マップから身近な地域のどのような特徴が読み取れるだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地理院地図活用の基本的な技能を身に付ける。</li> <li>今昔マップを活用し、地域の変容やその歴史的背景について考察する。</li> </ul>	○	●		<p>(評価資料)：ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地理院地図を活用し、自宅と学校の距離を計測したり、自宅周辺の地形的特徴を正確に読み取ったりしている。（技能）</li> <li>●今昔マップから地域の変容を的確に読み取るとともに、中学校での歴史学習の学習内容と関連付け、変容の要因について多面的・多角的に考察している。（思考）</li> </ul>
第三時	<p>【本時の問い】 現代世界はどのように表現されているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひなたGISを用いて、地理情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。</li> </ul>	○			<p>(評価資料)：レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1人1台端末でひなたGISを用いて地理情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。（技能）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の社会・人口動態について、ひなたGISを用いて、考察したことをレポートにまとめる。</li> </ul>	●	●日本の社会・人口動態について、ひなたGISを用いて情報を収集し、読み取ったことを基に、位置や分布に着目して多面的・多角的に考察したことを、適切にまとめている。(思考)
第四時	<p style="text-align: center;"><b>【本時の問い】</b> 日本の領土・国境はどのようになっているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な地図や地球儀を基に、地点間の距離や方位、位置や分布を調べた結果を踏まえて、地図の特徴を知るとともに、時差の仕組みについてワークシートにまとめる。</li> <li>地理院地図や海しるなどのウェブGISを用い、日本の位置や領域に関する問題の現状や背景などについてワークシートにまとめるとともに、領土に関する問題の解決に向けた取組について考察する。</li> </ul>	●  ○	<p style="text-align: center;">(評価資料)：ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な地図の特徴や用途とともに、時差の仕組みについて理解している。(知識)</li> <li>○日本の位置や日本の領土に関する問題の現状や課題、解決に向けた取組について、理解を深めている。(知識)</li> </ul>
第五時	<p style="text-align: center;"><b>【本時の問い】</b> 食を通じた日本と世界はどのような結びつきがあるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ブランドを通して、同じ食品でも地域によって、違いがあることを理解するとともに、食を通じた日本と世界の結びつきについて調べたことをワークシートにまとめる。</li> <li>貿易統計などを基に、日本と世界の結びつきについて調べ、年次ごとの変化をまとめるとともに、その変化の要因についてインターネットを使って調べ考察した結果を授業支援アプリにまとめる。</li> </ul>	●  ○	<p style="text-align: center;">(評価資料)：授業支援アプリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●食を通じた日本と世界の結びつきについて理解している。(知識)</li> <li>○日本の貿易相手国の変化とその要因について、位置や範囲などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(思考)</li> </ul>
第六時	<p style="text-align: center;"><b>【本時の問い】</b> グローカルって何だろう① (新型コロナウイルス感染拡大を考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業支援アプリにグローバルのイメージマップを作成し、視覚化し全体で共有する。</li> </ul>	●	<p style="text-align: center;">(評価資料)：授業支援アプリ、ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●イメージマップを通して、グローバルの意味について理解している。(知識)</li> </ul>

<p>★ 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フライトレーダー24」や「マリントラフィック」などから、グローバルな視点で、国家の結び付きや分布に着目して、新型コロナウイルス感染拡大を読み取る。</li> <li>・グローバルな規模における人や物の移動の特徴と、新型コロナウイルス感染拡大の様子との関連について、GISを活用して、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	<p>●</p> <p>●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「フライトレーダー」などの資料から、国際的な人や物の移動に関する情報を適切に読み取っている。(技能)</li> <li>●GISを活用して得た情報や既習事項を基に、位置や範囲などに着目して、グローバルな規模における人や物の移動と、新型コロナウイルス感染拡大との関連について考察したことを適切に説明している。(思考)</li> </ul>
<p>第 七 時</p>	<p style="text-align: center;"><b>【本時の問い】</b> グローカルって何だろう② (人・もの・サービスの流れを考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省統計を基に、グローバルにつながっているローカルな問題を読み取りワークシートにまとめる。</li> <li>・ニュースの記事を基に、外国人労働者の影響を知る。</li> <li>・地域別にみた外国人統計から、ウェブGISなどを活用して、どのようなつながりがあるのかを考察する。</li> </ul>	<p>●</p> <p>●</p> <p>○</p>	<p style="text-align: center;">(評価資料) : ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●経済産業省統計などの資料から、外国人労働者に関する情報を適切に読み取っている。(技能)</li> <li>●グローバルの現状について理解している。(知識)</li> <li>○地図や資料を活用し、外国人労働者について、多面的・多角的に考察したことを文章にまとめている。(思考)</li> </ul>
<p>第 八 時</p>	<p style="text-align: center;"><b>【本時の問い】</b> 地図や地理情報システムを通せば、この世の中はどう見えるだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を振り返り、地図や地理情報システムの役割や有用性についての自分の考えをまとめる。</li> <li>・単元の学習を振り返り、地図や地理情報システムを今後の地理の学習にどのように生かしてしていくのかということについてまとめる。</li> </ul>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p style="text-align: center;">(評価資料) : ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地図や地理情報システムの目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察している。(思考)</li> <li>○地図や地理情報システムの社会的役割や有用性について、単元の学習で扱った事例などを基に説明している。(知識)</li> <li>○学習を振り返り、次の地理の学習にも地図や地理情報システムを意欲的に活用しようとしている。(態度)</li> </ul>

12 本時の指導計画

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価対象
導入 3分	<b>【単元の基軸となる問い】</b> 地図や地理情報システムを通せば、この世の中はどのように見えるだろうか			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の主題とねらいを確認させる。</li> <li>本時の授業の流れについて確認する。</li> </ul>		
展開 1 10 分	<b>【本時の問い】</b> グローカルって何だろう① (新型コロナウイルス感染拡大を考える)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末上で授業支援アプリを活用しながらグローバルのイメージマップを作成し、視覚化し全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルに関するイメージマップを通じて、他者との考えを比較し、概念の理解につなげさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージマップを通して、グローバルの意味について理解しているか。(知識)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業支援アプリ</li> </ul>
展開 2 25 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス国別感染者数(外務省海外安全ホームページ)や厚生労働省 HealthMap などを見て、新型コロナウイルス感染拡大の様子を知る。</li> <li>「フライトレーダー24」や「マリントラフィック」などから、グローバルな視点で新型コロナウイルス感染拡大の変化の要因を探る。</li> <li>グループで Country-to-country net migration (2010-2015) から読み取ったことを書き出して、考察し、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大の状況を的確に理解させる。</li> <li>自分の意見を、WebGIS から読み取ったことをもとにして主張できるようにさせる。</li> <li>グループで選択した国の状況を読み取り、その要因について考察させる。</li> </ul> <p>グループ：1・4・5 インド グループ：2・3・6 南アフリカ共和国</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「フライトレーダー24」などの資料から、国際的な人や物の移動に関する情報を適切に読み取っている。(技能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表</li> </ul>

	<p>[グループ]</p> <p>A: リサーチャー①</p> <p>B: リサーチャー②</p> <p>C: 調整 (リーダー)</p> <p>D: 発表</p> <p>E: リサーチャー③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GIS を通せば、世界のつながりを知ることができることを理解させる。</li> </ul>		
<p>展 開 3 7 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバルな規模における人や物の移動の特徴と、新型コロナウイルス感染拡大の様子との関連について、GIS を活用して、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Country-to-country net migration (2010-2015)から読み取ったことと、新型コロナウイルス感染拡大の様子との関連について、ワークシートに考察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GIS を活用して得た情報や既習事項を基に、位置や範囲などに着目して、グローバルな規模における人や物の移動と、新型コロナウイルス感染拡大との関連について考察したことを適切に説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークシート発表</li> </ul>
<p>ま と め 5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時のまとめと感想をワークシートに書き込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時のねらいに対する自己評価とふり返りをさせる。</li> </ul>		

### 13 本時における評価の目安 ●【思】

	A (十分に満足できると判断される)	B (おおむね満足できると判断される)	C (「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て)
<p>思考</p>	<p>GIS を活用して得た情報や既習事項を基に、位置や範囲などに着目して、グローバルな規模における人や物の移動と、新型コロナウイルス感染拡大との関連について、多様な視点から多角的に考察したことを論理的に説明している。</p>	<p>GIS を活用して得た情報や既習事項を基に、位置や範囲などに着目して、グローバルな規模における人や物の移動と、新型コロナウイルス感染拡大との関連について考察したことを適切に説明している。</p>	<p>Bを満たしていない場合の指導・手立てとして、該当する国に関する思考の手立てとなる資料（産油国における外国人労働者の現状、植民地と宗主国の関係図）を配付し、その資料から読み取れることをについて、段階的な質問をすることで、思考する過程を構築させ、答えを導く道筋をつくる。</p>